

小出病院COVID-19アウトブレイクの経緯と教訓《概要版》

はじめに

今回の新型コロナ感染アウトブレイク（院内集団発生）は、県内最大規模の医療機関クラスターとなりました。2021年4月23日に職員の感染が判明し、保健所の指導のもと感染対策を進め、6月8日に非常事態宣言解除、病院機能正常化まで1ヶ月半を要しました。

この間、患者さんをはじめご家族、関係諸機関、地域住民の皆様には大変なご心配とご負担をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

アウトブレイクの経緯

日付	経過
2021年 4月23日	病院職員1名が発熱。医療機関を受診しウイルス抗原検査で陽性判定。
24日	感染職員所属病棟の患者・職員・委託業者に対してPCR検査実施。 新たに職員1名の陽性確認。
25日	新たに職員1名、患者7名の陽性確認。 陽性者は入院・他院へ転院。濃厚接触者は自宅待機。 入院病棟面会禁止。市中への感染拡大防止のため入院患者の退院待機。 救急外来、外来診療を休診。入院受入れ停止。
26日	院内アウトブレイクと判断。 <u>非常事態宣言発出</u> 〔救急外来、外来診療、病棟の入退院停止〕 〔入院患者への面会禁止他〕 潜伏期間を考慮した定期的な抗原、PCR検査を継続的に実施。
5月17日	内科を除く診療科を順次再開。
19日	一部病棟で入退院再開。
24日	入院患者、職員全員の検査陰性を確認。 新規受付患者を除く内科再開。
6月8日	最後の陽性者確認から3週間が経過し、 <u>非常事態宣言解除</u> 退院再開。 外来診療等正常化に向け再開。 <u>6月8日現在</u> 感染者数 計38名 内訳：患者27名、職員等11名

※小出病院では当院新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者の情報は把握することができません。
そのため、新潟県が発表する当院関連の感染者数と差が生じています。

本事案の反省からの考察

教訓とすべきこと

①感染拡大状況の認識と管理判断

今回のアウトブレイクは、疫学的検討から職員の発症前に感染兆候のない陽性者が入院し、感染リスクの認識がないまま感染が拡大したものと推定されました。

当時の対策は「症状あるいは行動歴から疑わしい人に検査をする」というものでしたが、「すべての入院患者にウイルス検査を実施する」であるべきだったと考えています。

現在は入院時すべての方にウイルス検査を実施しています。

②ワクチン接種の推進

全員にウイルス検査を実施しても偽陰性は避けられません。やはりワクチン接種が最も効果的な院内感染対策だと考えています。現在は希望する全職員のワクチン接種は終了しています。

魚沼市では7月末を目途に希望する全高齢者のワクチン接種が終了するよう、集団接種に取り組んでいます。高齢者のあとは現役・若年世代です。当院も全力を挙げて市のワクチン接種計画に協力していきます。

③すべてのひとに標準予防策

コロナ禍では「手洗い」「マスク」「手指消毒」といった標準予防策が重要です。今回のアウトブレイクから学んだことの一つは、状況を的確に把握し判断すれば、さらに強力な予防策を施すことができ、職員だけでなく患者さんにも協力していただけたということでした。病院内においてこのような感染予防行動を一緒に実施できるように取り組んでいきます。

おわりに

今回のアウトブレイク事案により、多大なご迷惑とご心配をおかけした皆様にあらためて深くお詫び申し上げます。

病院運営にも大きな影響がありましたが、魚沼市民の包括ケアを担当するという当院の本題の役割を取り戻すべく、一日も早く市民の皆様の信頼を取り戻せるよう、職員一同努力していきます。